

# 外国語

## 1 外国語科の教育課程の編成

### (1) 基本的な考え方

#### ア 学習指導要領改訂の基本方針

外国語科の学習指導要領の改訂に当たっては、次の三つを基本方針としている。

- (ア) これからの国際社会に生きる人間として、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていけるような資質・能力の基礎を養う観点から、外国語による実践的コミュニケーション能力の育成にかかわる指導を一層充実する。その際、外国語の学習を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と、視野を広げ異文化を理解し尊重する態度の育成を図る。
- (イ) 実践的コミュニケーション能力の育成を図るため、言語の実際の使用場面に配慮した指導の充実を図る。
- (ウ) 国際化の進展に対応し、外国語を使って、日常的な会話や簡単な情報の交換ができるような基礎的・実践的なコミュニケーション能力を身に付けることがどの生徒にも必要になっているとの認識に立って、中学校及び高等学校の外国語科を必修とすることとする。

#### イ 外国語科の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。

この目標は次の三つの要素から成り立っている。

- (ア) 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。
- (イ) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- (ウ) 情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。

#### ウ 科目編成

科目名	標準単位数
オーラル・コミュニケーションⅠ	2
オーラル・コミュニケーションⅡ	4
英語Ⅰ	3
英語Ⅱ	4
リーディング	4
ライティング	4
外国語に関する学校設定科目	

※ 学校設定科目については、学校において、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じて、設けることができるとされ、名称、目標、内容、単位数等については、外国語科の目標に基づき、各学校の定めるところによるものとしている。

## (2) 配慮すべき事項

外国語科の教育課程の編成に当たっては、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえながら、聞くこと、話すこと、読むこと及び書くことの四つの領域の言語活動の有機的な関連を図った指導を展開する中で、実践的コミュニケーション能力を育成するとともに、生徒の個に応じた指導の一層の充実を図られるよう、配慮しなければならない。

ア 「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」のうち、いずれか一方を必修科目として履修させる。両方を履修する場合は、一方を必修科目として、他方を選択科目として履修することとなる。

イ 「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」は、いずれも中学校で学習した内容の一層の充実を図りながら、それぞれの科目の目標を達成することとされている。

ウ 「オーラル・コミュニケーションⅡ」は「オーラル・コミュニケーションⅠ」を履修した後に、「英語Ⅱ」は「英語Ⅰ」を履修した後に履修することを原則とする。

エ 「リーディング」及び「ライティング」は原則として、「オーラル・コミュニケーションⅠ」又は「英語Ⅰ」のいずれかを履修した後に履修する。なお、「リーディング」及び「ライティング」については、「オーラル・コミュニケーションⅡ」や「英語Ⅱ」を履修する前に履修することも可能であるし、またこれらと並行して、さらに、これらを履修した後に履修することも可能である。

## 2 指導計画と内容の取扱い

### (1) コミュニケーション活動とは

「コミュニケーション活動」は、生徒が設定された場面において、英語を使って「情報や相手の意向などを理解したり自分の考えを表現したりする」実践的な活動のことである。

従来の聞くこと、話すこと、読むこと、及び書くことの4領域を独立して行うこととは必ずしも同じ意味ではなく、相手の意向を理解したり、自分の考えを表現したりする言語活動の目標を達成するのにふさわしい言語の使用場面や働きを取り上げて、4領域それぞれの働きを総合的、有機的に活用して、実際の場面で情報や考えをやりとりする活動をいう。

### (2) 指導計画作成上の留意点

「コミュニケーション活動」を重視した指導計画の作成では、次のことに留意する。

#### ア 「オーラル・コミュニケーションⅠ」

日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うことに重点を置いて作成する。

実際の活動を計画するには次のことに配慮する必要がある。

- (ア) 英語を聞いてその内容を理解したり、場面や場所に応じて適切に反応する。
- (イ) 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。
- (ウ) 情報や考えなどを、場面や目的に応じて適切に伝える。
- (エ) 聞いたり、読んだりして得た情報や自分の考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを理解する。

## イ 「オーラル・コミュニケーションII」

幅広い話題について、情報や考えなどを整理して英語で発表したり、話し合ったりする能力を伸ばすことに重点を置いて作成する。

実際の活動を計画する際には次のことに配慮する必要がある。

- (ア) スピーチなどまとまりのある話の概要や要点を聞き取り、それについて自分の考えをまとめる。
- (イ) 幅広い話題について情報や考えを整理し、効果的に発表する。
- (ウ) 幅広い話題について、話し合ったり、討論したりする。
- (エ) スキットなどを創作し、演じる。

## ウ 「英語I」

日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うことに重点を置いて作成する。

実際の活動を計画する際には次のことに配慮する必要がある。

- (ア) 英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- (イ) 英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- (ウ) 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、話し合ったり、意見の交換をしたりする。
- (エ) 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書く。

## エ 「英語II」

幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすことに重点を置いて作成する。

実際の活動を計画する際には「英語I」の内容をさらに発展させることに配慮する必要がある。

## オ 「リーディング」

英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることに重点を置いて作成する。

実際の活動を計画する際には次のことに配慮する必要がある。

- (ア) まとまりのある文章を読んで、必要な情報を得たり、概要や要点をまとめたりする。
- (イ) まとまりのある文章を読んで、書き手の意向などを理解し、それについて自分の考えをまとめたり、伝えたりする。
- (ウ) 物語文などを読んで、その感想などを話したり、書いたりする。
- (エ) 文章の内容や自分の解釈が書き手に伝わるように音読する。

## カ 「ライティング」

情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることに重

点を置いて作成する。

実際の活動を計画する際には次のことに配慮する必要がある。

- (ア) 聞いたり読んだりした内容について、場面や目的に応じて、概要や要点を書く。
- (イ) 聞いたり読んだりした内容について、自分の考えなどを整理して書く。
- (ウ) 自分が伝えようとする内容を整理して、場面や目的に応じて、読み手に理解されるように書く。

### (3) 内容の取扱い

#### ア 「オーラル・コミュニケーションⅠ」・「オーラル・コミュニケーションⅡ」

- (ア) 中学校における音声によるコミュニケーション能力を重視した指導を踏まえ、話題や対話の相手を広げたコミュニケーション活動を行いながら、中学校における基礎的な学習事項を整理し、習熟を図る。
- (イ) 読むこと及び書くこととも有機的に関連付けた活動を行うことにより、聞くこと及び書くことの指導を効果的に高めるよう工夫する。

#### イ 「英語Ⅰ」・「英語Ⅱ」

- (ア) 中学校における音声によるコミュニケーション能力を重視した指導を踏まえ、聞くこと及び話すことの活動を多く取り入れながら、読むこと及び書くことを含めた四つの領域の言語活動を総合的、有機的に関連させて指導する。
- (イ) 生徒の実態等に応じて、中学校における基礎的な学習事項を整理し、多様な場面での言語使用の経験をさせながらそれらの習熟を図るよう配慮する。

#### ウ 「リーディング」

- (ア) 聞くこと、話すこと及び書くことも有機的に関連付けた活用を行うことにより、読むことの指導の効果を高めるよう工夫する。
- (イ) 言語材料の理解だけにとどめず、情報や書き手の意向などを的確につかんだり、それについての感想や意見をもったりするなど、読む目的を重視して指導する。

#### エ 「ライティング」

- (ア) 聞くこと、話すこと及び書くことも有機的に関連付けた活用を行うことにより、書くことの指導の効果を高めるよう工夫する。
- (イ) 言語材料の学習だけにとどめず、その際、より豊かな内容やより適切な形式で書けるように、書く過程も重視するよう配慮する。

#### オ その他の配慮事項

- (ア) 音声指導の補助として、発音表記を用いて指導できる。
- (イ) 辞書などの使い方を指導し、自ら外国語を理解し、外国語を使おうとする積極的な態度を育てる。
- (ウ) 指導方法や指導体制を工夫し、ティーム・ティーチングやペア・ワーク、グループ・ワークなどを取り入れたり、視聴覚教材や、LL、コンピュータ、情報通信ネットワークなどを指導に生かしたり、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得る。

### 3 指導計画の作成

#### 科目「オーラル・コミュニケーションⅠ」の指導計画(例)

【活動上の留意点】

- ・ALTとのTT
- ・Classroom Englishの使用

【次の活動を必要に応じて行う】

- pair work, group work, role play, discussion, debate, gesture, eye contact, facial expression, speech, presentation, recitation, dictation, skit, etc.

学期	月	週数	単元(項目)	指導項目 (言語の働き)	指導のねらい	予定 時数	活動内容と留意事項 (言語の使用場面)	
1	4	2	Unit 1	L1	●挨拶する、紹介する I'm+名前 My name is+名前	・自己紹介の基本的表現を知る ・リスニングの大切さを知る	2	【人を紹介する学校、レストラン、パーティー】 Listening, Speaking Pair work - Group work 写真を利用した家族の紹介 ビデオ撮影による雰囲気作り
			L2	●説明する、理由を述べる be interested in What kind of ~ do you like? How about you?	・興味・関心についての話しを聞いて、必要な情報を拾い出す ・興味・趣味についての情報を聞き出すために適切な質問をする ・その質問にふさわしい答え方をし、必要な情報を的確に伝える	3	【興味・関心について話す-Recitation, Speech】 Listening(Note taking) Speaking(Gesture, Eye contact, Facial expression) Pair work - Group work Speech - Q&A 本、雑誌、ポスター等の利用	
	5	3	L3	●あいづちを打つ That's good. ●聞き返す Pardon? I beg your pardon? Excuse me? Sorry? Especially what?	・聞き取れない時にその旨を伝える ・聞き取れなかったことばについて聞き返す ・聞き返しの質問に対して、同じ言葉であるいは言い換えて的確に情報を伝える	3	【あいづちの表現を知る-Skit】 Role play Listening(Facial expression, Eye contact) Speaking(Gesture) イントネーションなどの指導 Flash cardsの利用	
			L4	●電話の特有表現を知る Hello, this is Joel... speak to~ call me ●許可する、依頼する May I speak to Jim? May I ask your name, please? Would [Could] you...? ●申し出る Would you like to leave a message? Can I take a message? ●電話番号が聞き取れないときに聞き返す Could your repeat your number? Could you say that again? Would you repeat that?	・留守電話を受け取る ・伝言をメモにとる ・不確かな事柄を確認する	3	【電話での会話-Skit】 Pair work Role play Listening(Note taking) イントネーションなどの指導 電話メールの活用  評価について ・生徒の関心や意欲などをはかる評価項目を設定する ・学期に2回程度生徒同士の相互評価、生徒による自己評価を行う ・視線、ジェスチャー、他人への依存度、間違いへのこだわりなどをA~Cで評価する	
2	10	3	Unit 4	●説明する turn left [right] at ~ you'll find [see] ~ on your left [right] go straight~until.... You can't miss it. ●あいづちを打つ I see.... Great. ●その他 Thanks a lot.... You are welcome.	・道順を聞くために適切な質問をする ・道順のポイントを正確につかむ ・目的や交差点などのポイントを示しながら、わかりやすいように道順を説明する	3	【道を尋ねる、案内する-Skit】 Pair work Role play Speaking(Gesture, Facial expression) Listening(Note talking) 広告、新聞、雑誌等の利用 ビデオ撮影による雰囲気作り	
計						70		

#### 4 質疑応答

問1 実践的コミュニケーション能力を育成する授業をすすめる際の留意点は何か。

コミュニケーション能力の育成を図るには、実際にコミュニケーション活動を教室で展開することが必要である。そのコミュニケーション活動が成立するためには、次の3つの要素が必要である。

- ① 情報や考えを伝え合うことを活動の中心とすること。
- ② 生徒が情報や考えの受け手や送り手となること。
- ③ 具体的な言語の使用場面を設定すること。

言語の使用場面の設定については、場面の設定そのものが目的ではなく、場面の中で言語が使用されることが重要である点に留意しなければならない。

指導に当たっては、次のような指導方法や指導体制を工夫して授業に組み入れることに留意することが大切である。

- ① ティーム・ティーチング —— 複数の日本人教師によるものと、ALT、地域に住む外国人、海外からの訪問者や留学生、外国生活の経験者などによるものがある。
- ② ペア・ワーク —— スキット、ロール・プレイ、インタビュー、即興劇など
- ③ グループ・ワーク —— スピーチ、プレゼンテーション、ロール・プレイ、即興劇、ディスカッション、ディベートなど
- ④ 視聴覚教材 —— 録音テープ、ラジオ及びテレビのニュース番組、ビデオ、映画などの活用
- ⑤ LLの活用
- ⑥ コンピュータの活用 —— 個別学習ソフト、辞書ソフトなど
- ⑦ 情報通信ネットワーク —— 電子メール、ホームページ作成、インターネットからの情報検索など

問2 コミュニケーション活動と文法事項を教えることとの関係はどうあるべきか。

文法事項そのものを教えることが目的ではなく、また、理解させるだけに終わるのではなく、様々な活動をとおして、実際に使わせる指導を行うことが大切である。

一般に、相手の意向が理解できないときや自分が伝えたいことをどう表現すべきか分からないときに文法事項の重要性が分かるため、まず、コミュニケーション活動を設定し、そこで実際にコミュニケーションを行うときの意味や意図を考えた上で、それを表現するために用いられる、あるいは必要となる文法事項を指導し、使わせることが重要である。

その際、コミュニケーション活動を効果的に行うために必要な文法事項は、基本的な項目に精選し、あまり日常的に使用されない細かい用法上の違いなどにとらわれないように留意する。